

(社)住宅リフォーム 推進協議会 会長賞

タイトル

光を呼び込み、家族をつなぐ、
間口2.5間の家

タイプ

持家一戸建

構造

在来木造、鉄骨造

所在地 福島県二本松市

築後年数 26年

施工期間 150日間

該当工事面積 253.39 m²

総工事床面積 278.55 m²

該当部分工事費 5,370万円

総工事費 5,440万円

居住者構成 15歳以上65歳未満:4人

設計会社 住友林業ホームテック(株)
担当者:鈴木 茂治

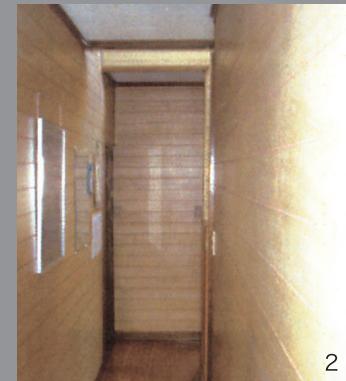
施工会社 同上
担当者:渡部 隆



5 廊下をなくし、縦長のリビングが居室をつなぐ。リビング階段を設けることで、家族の気配を感じる空間に。フローリングのぬくもり感と、モダンデザインの融合を目指した。
階段わきには自然の光を取り込む吹抜けを設置。リビングにさんさんと降り注ぐ日差しが、明るくあたたかみのある寛ぎ空間を演出し、間口が2.5とは思えない開放感をもたらす。



2 1階には趣味のピアノや収集した本を見せられるホビールームを。さらに、バリアフリーにも考慮し、ホームエレベーターを設置した。



廊下ばかりが多く、薄暗い住まいから、広々とした、明るい住まいをご希望。



リフォーム前



かつては小さな部屋が多く、手狭な空間で閉塞感を感じながら暮らしていた。



リフォーム後

<リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など>

(リフォームの動機)

道路拡張に対応するため、建物の前部を減築し、後部を増築。亡くなったお父様の建てられた住まいを残すため、建て替えではなくリフォームを決断。開口が2.5間と狭く、各部屋が暗いうえ、廊下ばかり続く間取りにも不満。小さい部屋が多く、家族でゆったりと過ごせる部屋が欲しかった。車が通る度に感じる地震のような揺れを少なくして欲しい。

(設計・施工の工夫点)

開口の狭さを、極力短くした廊下と、通路を兼ねたリビングで解消。吹抜けを設け、自然の光が注ぐリビングに。各居室を角部屋になるように配置することで、プライベート空間も確保。既存建物と増築部のEXP.JOINTは建物の干渉を避けられるよう注意。

(施主の感想・満足度)

リビング階段により、人の行き来がわかるようになった。床暖房と断熱材のおかげで、暖かさと静けさが段違い。開放的かつ明るい家ができ、来客も増えた。家族各自の趣味や将来のことまで真剣に考えてくれたプランニングに満足。浴室や、3階からの安達太良山の眺望を以前より楽しめるようになった。

(住宅の価値を向上させた内容)

3階建て特有の揺れを防ぐため、床の水平剛性を高め、鉄骨部や梁を補強。タフパネルも搭載し、建物全体の剛性を高めた。

●性能向上の特性

耐久性能 バリアフリー性能 温熱性能 防音・遮音性能 防犯性能 室内空気環境

●特に配慮した住宅性能

床の水平剛性強化。鉄骨部、梁の補強・タフパネル搭載。
エレベータを設置。 床暖房・断熱材を導入。オール電化。



3

3階ホールにはちょっとした作業の出来る書斎スペースを。
奥にはウォークインクローゼットを設置し、収納を充実させた。



リフォーム部位： 居室 台所 浴室 便所 洗面所 廊下 階段 玄関 エクステリア マンション共用部

この作品は、前面道路の拡幅による建物の部分撤去という、施主にとっては不運な状況を、逆に改変のチャンスと捉え直して増減築を行ったものである。実現されたプランは、2間半という間口の狭さを全く感じさせず、以前とは比べ物にならないほど明るく広く、風通しが良くなっている。トップライト、吹抜けなども有効に機能している。構造面での無理は少なく、鉄骨造と木造の間のエキスパンション部分も目立たない。道路側には景観協定もかかっているが、素直に対応している。

施主家族からは細かな要望が多く出されたようであるが、設計・施工者は粘り強く対応し、工事中の説明も丁寧に行っている。結果として要望以上の空間になった背景にはこうした姿勢があったことを、まず指摘したい。

施主家族は多趣味で持ち物が多い。それにもかかわらず「始末の良い」暮らしを実現しているのは、間取りの良さに加えて収納スペースがしっかりと確保されているためである。特に1階の趣味室は、当初の要望にはなかったそうだが、設計者が法規的な制限と調整しつつ誰でも立ち寄れるような緩衝スペースとして提案したもので、大変重宝な「飾れる」空間ができたと喜ばれている。上り框の向きや坪庭の設置、使い分けのできる大きな下足入れなど、生活実感に即した工夫もきめ細かく組み込まれている。

構造剛性や断熱性、バリアフリー性などの基本性能もきちんと補強、向上されている。従来から大きな問題であった前面道路からの振動や騒音は飛躍的に改善され、室内ではほとんど意識されないほどである。家全体から感じられるこうした安心感は、大手のリフォーム専業企業ならではの高い総合力がもたらすものであろう。

工事金額は多額に見えるが、土地補償費だけでなく、各種補助金や自己資金なども相応に含まれており、合理的で

賢明な投資がされている。資産価値もバランス良く向上したと思われる。当初は建替えも考えられたようだが、亡父の建てた家を、同居する母親が簡単には取り壊したくないという強い意向があったとのこと。愛着のある家を壊して心に穴を開けることを避けられたのも、リフォームの持つ大きな役割の一つであろう。新しい窓を通して遠くの山並みや空を眺めていると、静かな生活の豊かさを感じられ、郷土への愛着も自然と増すようである。

施主家族は地域とのかかわりは深く、来客も多い。リフォームという選択が、施主家族の生活のみならず、記憶の継承や地域コミュニティまで力強く後押ししたことを実感できるこの作品は、全国で同じ状況にあって悩む人たちに元気を与えてくれそうである。

以上のことから、この作品は(社)住宅リフォーム推進協議会会長賞にふさわしいと判断した。

